

平成 27 年度第 2 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

1 会議名 平成 27 年度第 2 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 平成 27 年 8 月 18 日（火）14:00～16:00

3 開催場所 八幡平市役所本庁舎 3 階大会議室

4 出席者

【委員】18 名

工藤光栄委員、田村恵委員、野中邦仁委員、高橋麻里委員、伊藤忠雄委員、及川浩純委員、小野寺純治委員、金沢悠介委員、熊谷一樹委員、野原秀則委員、牛抱昭委員、大金恵美子委員、村上俊介委員、高橋麻美委員、遠藤武敬委員、森順彦委員、渡邊るみ委員、菊池光洋委員

【市側出席者】

田村市長、岡田副市長、遠藤教育長、香川企画総務部長、小林市民福祉部長、小山田産業建設部長、工藤教育次長、事務局（市長公室：佐々木孝弘、佐々木宣明、三浦拓）

5 議事

(1) 第 1 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料について

(2) 八幡平市人口ビジョン及び総合戦略＜骨子案＞について

(3) その他

6 意見交換の内容

事務局	(1) 第 1 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料についての資料説明
会長	<p>ありがとうございました。今事務局から丁寧な説明がありましたとおり、前回の皆さんからいただいたご意見、ご質問に対してこのような資料作っていただいたということです。何か追加のご質問、ご意見はございますでしょうか。</p> <p>一番最後の資料は、石破大臣の講演の資料に面白い資料があるのでというので付けさせていただいたものでありまして、生活費について 5 ページの資料は、これがいわゆる一般的な全国消費実態調査と言われるもので公表されているデータであります。多分この間の各委員さんからのご発言は、これとは現実、そういう感じ、感覚が違うよねということで話があったのだらうと思って、杉並で 200 m²の家を持てるかどうかという議論は確かにあるのですが、ただ、そういうことを入れるとこうなると。ただ一方では、当然杉並に行けば 200 m²というのは本当の上層部、高級住宅であって、しかも鉄道も発達していてすごく楽で、病院もあったり、買い物もすぐ近くにあるという、そういう利便性があるということも事実なわけです。そういう利便性とこのようなコストと総合的に考えて、要するに市民の方であったり、U ターン、I ターンを目指す方にどのよう</p>

	<p>な情報を適切に提供していくのかということが多分これから自治体の経営戦略の中では求められてくるのだらうと私自身は考えてつけさせていたいただいたというものであります。</p> <p>それから、2 ページに社会増減と有効求人倍率の格差、かなり相関が出ているということで、ただ、ここ 2 年ぐらいは東日本大震災の沿岸地域における復興需要があるものですから、なかなかそれが八幡平市までうまく波及していないというようなことだらうかなと思っています。</p> <p>その一方で、平成 7 年から 12 年、95 年から 2000 年ぐらまでの間、私の理解では日本としては 1990 年にバブルが崩壊して首都圏を中心に壊滅的な状況になるわけですが、当時の内閣が何をやったかという、地方に受け皿を作るということで税金を使って地方にどんどん公共事業をやってくれということでお金をある意味ではばらまいていただいたということだらうと思います。そういうこともあって地方のほうでは比較的有效求人倍率が高かった時期があるということだらうと思っています。</p> <p>何かご質問であったり、これに関連するご意見であったり、いかがでしょうか。前回ご質問をいただいた方も大体ご納得いただいたのでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
一同	はい。
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今日の本題であります議事の 2 つ目、八幡平市人口ビジョン及び総合戦略<骨子案>について事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	八幡平市人口ビジョン及び総合戦略<骨子案>についての資料説明
会長	<p>丁寧にご説明いただきましてありがとうございました。</p> <p>今回は、冒頭でもお話ししましたとおり、次回以降、深掘りをしていくために、今回はいろいろな視点から皆さんにご議論いただいて、こういう視点が抜けているのではないか、こういう視点はおかしいのではないか、そういう視点からいただきたい。逆に細かな事業で、これはどうだらうかというご意見も当然いただきたい。それは次回以降に時間をしっかり取っていきたいと思います。今回は今申し上げたような大きな視点でまず皆さんとずれがあるかどうかというものを確認したいと思っております。</p> <p>今回の骨子案は、事務局がとりあえず作ったものと。1 ページの裏側の今後の進め方のところにありますように、地域へ出かけての意見交換会、それから若手職員におけるワーキング、さらには高校生、大学生との意見交換、そういう形で行って具体的な事業を拾い出していくというような作業に入っていくと聞いております。そういう面で、それに向けてたたき台として出せるようなものを今回は議論していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>皆さんのほうから何かご質問でも結構です。ここがちょっとわからなか</p>

ったというところでも結構ですが。

では、まず分けてやりましょうか。10 ページまでが人口のところがありまして、もう1度皆さんと確認ですが、1 ページの前の目次の左側、おもてページの裏側のところで、人口のところは2040年ないし2060年、国のまち・ひと・しごと創生本部では2060年をベースとしつつ、それ以外の人口でもいいと言っています、たしか岩手県は2060年、岩手県内の多くの自治体は2040年を一応ベースにするだろうと言われています。2060年だと、今2015年ですからあまりにも先のことでよくわからないと。ただ、2100年とか2060年という数字も当然あるわけですが、一応目標として確からしい目標を置こうというのが大体2060年ないし2040年ということで動いているようであります。そのための人口としていろいろと分析した結果、推計値と、それを踏まえた考え方ということで、推計値が7 ページにあるわけですが、これは前回も見ていただいた推計でありまして、2040年に社人研が出したものが一番下ですかね。それだと2060年の9947人ということで、1万人を切ってしまうということで、これはどうかと。

今回の地方創生総合戦略というのは、私が中途半端にかじっているかもしれないんですが、こういうことだと私は理解しています。あくまでもシミュレーションに基づいて人口推計して、それを唯々諾々と受け入れるのではなくて、自分たちはこの地域はこのぐらいの人口は最低限必要だよねということ踏まえて、そのためにはじゃあどういう施策をしていくのかということを考えていくのがこの地方創生総合戦略だと思っていますので、単なるシミュレーションではなくて、恐らく事務局でもこれから考えて、9000人ではなくて、1万7000人まで行けるか、1万4000人で行くのかというところを多分これから皆さんと一緒に考えていくということになるのだらうと思います。

2060年で、例えば1万7000人であるとした場合には、1万人から7000人増やす。7000人増やすための具体的な施策が出てこなければならないということになるわけです。これまでの従前の総合計画のような作り方でどんどん人口が減ってきたわけですから、それをそのままではなくて、やはり思い切った何か発想の転換が必要になるだらうと思うわけであります。

もう少しだけ申し上げると、8 ページに出生率のシミュレーションがありまして、2015年における八幡平市の出生率は1.40 ということで、これは実は岩手県の平均よりも少し低いんですね。だから、なぜ岩手県の平均よりも八幡平市の出生率が低いのかということも多分皆さんの中では思い当たることがあって、出てきて、こういうことがあるから若い人たちは子どもを安心して産めないんだということがあるのであれば、そういう意見を出していただく。それをみんなで考えて直していかなければ出生率は上がらないということで、先ほど申し上げましたが、1 つには、八幡平市の男性陣は育児に全く興味を持たずに、全部奥さんに任せっぱ

	<p>なしということであればやはり上がらないだろうし、あと考えられるのは、核家族化になってしまって、すぐ近くにじいちゃんばあちゃんがいない。そうすると子どもを預ける場所が少ないとか、そういうことも場合によっては原因の 1 つになっているかもしれない。私はあてずっぽうで言っていますが、そういうこともあるのかもしれない。そういうことを直していかないと出生率というのはこのように 2.07 まで上がらないと思うわけであります。必ずしも所得が高いから出生率が上がるかということではないようで、例えば日本で一番高い出生率はどこかという、沖縄です。沖縄は全国の中では最も低い 1 人当たりの県民所得になっています。にもかかわらず、温かいからいいということもありますし、あまり悲観的に考えないということもあるかもしれませんが、ですから、経済状況だけではなくて、やはりいろいろなケアがあることによって出生率は上がるものだろうと思っています。</p> <p>何か人口関係で、先ほどの強み、弱みの分析もありましたが、ご意見等はありませんでしょうか。</p>
委員	<p>多分出生率を考えるのは壁が 2 つあると思うんです。1 つは子どもがいない方が子どもを 1 人作るということ、もう 1 つは 1 人から 2 人という壁。それが与える影響、諸々の出生に関する研究を考えると要因は異なると思うんです。なので、多分出生率という問題を考える場合、この 2 つの壁を考えた上で、それぞれの障壁をどう取り除いていくかというのを考える必要があるのではないかと思います。</p> <p>ただ、僕も独身なので、壁がどういうものがあるのかというのはよくわからないので、皆さんのご意見をぜひ伺いたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>もう 1 つ、結局子どもが増えるということは、出生率が上がるということのほかに、子どもを産むことのできる、これも失礼な言い方になりますが、そういう女性の数がある一定以上なければ子どもは増えてこない。率が上がってもそういう若い女性が都会に出て行ってしまいうということでは数が増えない。</p> <p>先ほど事務局から資料をいただいたのですが、八幡平市の場合、20 歳から 24 歳での出生率は岩手県平均よりも少し低いんですね。これはどういうことかという、若い人が子どもを作っていない。それは多分働きに行ったり、盛岡に勤めに行っている部分もあるでしょうし、いろんな問題があつてご結婚も遅いのかもしれませんし。そういうことがあつて若い世代が、特に 20 歳から 24 歳までの間の、これはよく都市部に言えることなんですね。盛岡市はもっと低いわけですし。だから、結局高学歴化していくと、大学生であったり、勤めてまだ間もないので結婚が遅れてしまって、結局子どもを作る時期が遅くなってしまう。そういうこともあるのだろうと思いますが、こういうところを上げていく努力というのが多分これから必要なんだろうと思っています。</p>

	<p>今申し上げたように、1つは出生率を上げるというのは委員から出たように、0から1人目を作っていくというときのハードル、1人目から2人目、3人目を作っていくときのハードル、それから若い女性が地元に着定して子づくりができるような環境、そういうものが全部賄えないと多分出生率は上げられないのではないかとこのように問題意識を持って進めたいと思います。</p> <p>ほかに人口関係ではよろしいでしょうか。これは引き続き3回目で概ねの数字になっていくだろうと思いますので、ぜひ問題意識を持ってご検討いただきたいと思います。</p> <p>続いて施策のほうに入っていくとすれば、戦略のほうですが、11ページからになります。11ページに大きな箱が2つありまして、左側が国がマニュアル等で定めている総合戦略における4つの基本目標ということで、「安定した雇用創出」「新しい人の流れ」「結婚・出産・子育ての希望」「地域と連携する安全・安心な暮らしを守る」ということでありまして、それを八幡平市としてはこのような表現で「雇用の場を育む」「住んでみたくなるふるさとを育む」「次世代の成長と笑顔を育む」「コンパクトなまちづくりにより持続性を高める」という4つの大きな目標にしたいということですが、この視点でどうかなというのがありましたらご意見をいただきたいと思います、いかがでしょうか。</p> <p>国が特に強い言葉で言っているのは、東京に昭和30年～45年に500万人も行ってしまっている。今も第2のそういう集まりがあって、特に子ども大学も頑張らなければいけないのですが、岩手県内の18歳から22歳までの子どもたちが結局進学という名を借りて東京に行ってしまう。そういうのをどうやってとどめていくのかということ、東京に行ってしまうと当然通えるわけではないので、それがもし盛岡であれば、場合によっては通えるかもしれないということにもなるわけです。そういうことを我々大学も努力しなければいけないわけですが、地方への新しい人の流れを作るとというのが私自身は、「行ってみたくなる、住んでみたくなるふるさとを育む」ということで若干弱いかなというふうには思いますが、ここは非常にやわらかい表現でいいかなという部分もありますが、何かご意見はありますでしょうか。</p>
市長	<p>この間、15日に成人式をして、200人ぐらいの成人の人がいました。皆さんの中で八幡平市に住んで、八幡平市で一生暮らしてみたいと思っている人、手を挙げてくださいと言ったら、20人ぐらいしかいなかった。恥ずかしくて手を挙げない人もたくさんいたと思いますが、20人ぐらいしかいなかったんですね。</p> <p>一連の人口減少もそうだし、東京一極集中が現実だとか、その結果として地方がどうなっているのかとか、結婚する喜び、人生の喜びだとか、地方の良さとか、そういったものを子どものうち、特に中学、高校あたりに徹底してアピール、教えるということが私は絶対に必要だと思います。それが無いから、やってはいるのでしようけれども、やはり結婚し</p>

	<p>て子どもを育てる充実感、幸せ、そういったものとか、実態を教えていかなければいけない。人口はこうだよ、東京一極集中はこの年代からこうやって始まって、そのために地方はこのぐらい疲弊しているんだよ、そういうものも子どもに教えて、その中で聞いた子どもの何%が「そうだな」と思うかはわかりませんが、そういう行動が必要ではないかと思うのですが。</p>
会長	<p>本当にそのとおりだと思います。結局、地域に愛着がないと目先の利便性だけで動いてしまう。若い時期はそういうことがあるだろうと思います。それがある程度年を取ってくるといろいろなことに見えてきて、地域もいいものだよねと。面倒くささもありますが、いいものだよねということで一定程度戻ってくる。それが例えば若気の至りで出て行ってしまったときに、東京で疲れ果てたときにふるさとに帰れるかとなると、なかなか情報もなくて帰れない。そういうようなものをどうしていくのかというのが今問われているのだろうなど。ただ、200人いて、1割しか手を挙げなかったのですか。</p>
市長	<p>恥ずかしくて手を挙げないという人もいると思います。2割ぐらいは手を挙げる人はいるのではないかなと。</p>
会長	<p>実は前回の資料にもあったと思いますが、東北地域において、東北で生まれ育った人たちの6割強、68%しか東北に残らないんですよ。次に低いところというのは四国の78%でしたか。10%ぐらい違うんですよ。それだけつまり東北の若者は東北に未来を持ってないかわからないですが、東京が近いせいかもしれません、すぐ東京に出て行ってしまいます。いずれはすぐ戻るつもりで出ていく子どもたちもいるかもしれないけれども、やはりなかなか帰れないという現実があるのだろうなど。そのところをどのようにうまく情報発信していくのかということがすごく大事ななと思います。</p> <p>座長だけがペラペラとしゃべってもいけないので、今の市長さんの話も含めて、何かご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私も見せていただいて、今働いている方たちに対して、企業だとか、働きたいという意欲、あとは今から子育てするお若い年代の人たち、都市部の人たちへのアピールがすごくあっていいなと思ったのですが、その中間というか、子どもたちに八幡平市の魅力を教えるという部分がちょっと見たときに少ないかなと思いました。</p> <p>今、市長さんや会長さんがおっしゃったように、子どものころに住んだ八幡平市にすごく魅力があると感じれば、一旦はさまざまな理由で都市部に出ていったとしても、あそこでああいう働く環境があるとか、農業とかすごく魅力を感じていけば必ず戻ってくると思うんです。</p> <p>私は小学校の教員をやっているのですが、小学校、中学校でもっと地元の良さをアピールするようなものやっていると、大人になってから八幡平市はすごくいいですよと言われて戻ってくるよりは、子どものころに植</p>

	<p>えつけられたというか、与えてもらった印象というのはすごく強いと思うので、やはり教育の中に、あるいは家庭でも実際に親世代があまり市の良さを知らないということもあるので、もっと子どもたちにも視点を当てて、将来戻ってきてねという言い方をして、戻ってきてもらえるような魅力を発信するような、学校でも家庭でもやっていくといいかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。非常に大切な視点だと思います。</p> <p>よく最近言われているのは、地域の文化、伝統行事を大切にしていこうという。地域の文化というのは2つあって、1つは伝統的な文化を大事にする。それから新しくまちづくりでうまくいっているところは、例えば美術家、芸術家を引っ張ってきて、それでもって新しいまちの芸術性を高めていくという2つの動きがあるようであります。後者のほうはなかなか難しいだろうと思いますが、子どものときに体験した地域の夏祭りであったり秋祭りであったり、そういうことをしっかりと、今年もやっているよということで、そういう機会に戻ってくる。お盆というのはある面では先祖への、要するにお墓参りとして戻ってくるわけですが、祭りとして戻ってくるというのもすごく大事なのかなということで、今お話しの地域の文化とかそういうものをお伝えするという部分が若干これから必要なのかなとは思っています。ありがとうございました。</p>
委員	<p>今の意見と同じかもしれませんが、私が知っている方で関東圏から移住されてきた方々は、この地域の自然のすばらしさとか、そういうことをすごく褒めてくださいます。私はここで生まれ育ったのですが、雄大な岩手山、八幡平ということで、それは普段から見ている、特に変わりもなく、ただ価値があるかどうかということでは特に考えないで来たのですが、都会で過ごしてきた方々は、とても素晴らしいと。水もおいしいし、空気もきれいだし、景色が何よりいいということで、仕事をリタイアというか、終えられた方々が移住されてきているということで、そういうところの素晴らしさも伝えていくべきことなんだなと。私たちはすごく恵まれたところで過ごしているということをみんなで本当におわかって伝えていくことが大切だと思います。そういうことで地域に対しての考え方が変わってきて、そこから何かを作り出そうという意気込みとか考えが生まれてくるのかなと思います。</p> <p>あとは、農業が今本当に廃れていますが、今までのやり方の農業が駄目なのかなと、私はわからないのですが。八幡平市は、第一次産業が一番主流なのかなと思っていますが、新しい魅力、農業の考え方というか、そういうことを模索してというか、ループしてもいいのかなと。例えば今までのような流れの出荷ということではなくて、そこからいろいろな観光に結びつくとか生活に結びつくとか、そういうふうな農業に持っていくんだというふうに取り組めるようなとか、そのように考えを持っていけるようにすると、それが新たな資源になるのかなと思っています。</p>

	す。
会長	<p>ありがとうございました。本当に大事な2つの話がありました。自然の素晴らしさ、それから特に一次産業である農業が本当に衰退する産業なのかどうかということをもう1回みんなで考えていく必要があるだろうと思います。</p>
委員	<p>やはり地域の人もそうですが、地域の外の人たちに市の良さをアピールすることが重要だと思います。今までのさまざまな地域おこし研究を見ていると、そういう場所に気づくのはUターンしてきた人、Iターンしてきた人ということなので、外部の人たちの目を入れつつ、八幡平市の良さを特に都市圏の人たちにある程度アピールする。農業をしてみたいとか、人口が多いことを考えれば、その何%がという結構な数になるはずなので、そこに向かってアピールしていくというのが1つの方法なのではないかなという気はします。</p> <p>ただ、そういうことを考えても、実際に移住した後に生業がないと暮らしていけないので、八幡平市はどういう職業を提供できるのかということを考えていくことも重要だと思います。</p> <p>特に大学進学で都市部に出ていった人に、以前いただいた八幡平市の転出した人のデータを見てみると、若い人たちは転出時点では帰りたいと思っている人が結構いるので、その人たちが東京に行ったときに、東京に行って多分いろいろな就きたい職業を考えるとと思うのですが、その就きたい職業を八幡平市が提供できるのかどうかということもある程度考える。つまりやりたい職業と八幡平市が提供できる職業にマスマッチが起きていたり、帰ってきたい気持ちはあるんだけど、現実的に帰って来れないという事態が起きると思いますので、もし可能であれば、高校生、大学生との意見交換会に、東京に出た学生の人たちの意見を聞けるとこら辺のヒントが得られるのではないかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。すごく大切な視点だったと思います。高校教育などで、私も昔、40年前に、東京へ行くことはいいことなんだみたいなことで、「とりあえず東京の大学」みたいなことがあるわけですね。そういうことではなくて、新しい価値観というものが地域の中に生まれていく。またはズレているものをどうやって合わせていくのかというのはこれからすごく大事な作業になるのだろうと思います。</p> <p>ほかは、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今のお話と関連するのですが、骨子の基本案の「働きたくなる雇用の場を育む」ということで、総合戦略というのは八幡平市で取り組むものだと思うのですが、働きたくなる雇用の場を育むというのは実際のところは恐らく仕事を作ることだと思うんです。さっきのお話にあったように、八幡平市でどんな仕事を提供できるかということ。恐らく八幡平市で、世界というか、日本の中で見た中でこういうものは提供できるというのがあると思うのですが、それを市が実際に作っていくような感</p>

	じのものという捉え方でいいのですか。質問ですが。
会長	この「育む」は次の 12 ページにいろいろと書いてありますが、何か事務局のほうから補足説明はありますでしょうか。
事務局	雇用の場を作るといふことと、雇用の場の拡大、今就業の場はいろいろあるわけですが、さらに拡大していく。あるいは第一次産業についても新規就農支援という現在展開している事業があり、それによって 35 名ほどの新規就農者の方もいるのですが、さらに第一次産業への就業支援を強化し、就業者数を増やしていきたいということも含め、雇用の場を作るといふイメージで考えています。
会長	<p>ありがとうございました。ちょっと補足しますと、例えば雇用の場で、資料にもありましたが、東京の 1 人当たりの労働生産性ということがありますよね。労働生産性というのは、1 人当たりの総収入から原材料費などを引いた残った人件費に当たる部分とか、利息の支払い部分とか、利益になる部分。それが東京の場合は 1090 万円。ところが岩手は 660 万円であると。ですから、東京で 1090 万円のうち、人件費分で 800 万円ぐらい貰うとすると、岩手は 660 万円しかないわけですから、500 万円ぐらいしか貰えないというわけです。ということは、労働生産性を上げなければ東京のような賃金を貰うことができないというのが 1 点。</p> <p>もう 1 つは、委員が言われましたとおり、東京と同じような職業がこの地でできるかどうかというのがもう 1 点だと思います。でも東京と違う、例えば広大な多様な自然環境の中で新しいビジネスという可能性はある。それはどうなるかわからない。そこをどのように開拓していくのかということがすごく大事で、農業も新しい視点で切り込んでいかないと多分生産性は上がらないだろうと思います。そういうことをこれからみんなで考えていく。これは行政だけではなくて、多分考えていかなければならない。</p> <p>1 つ事例として、徳島県に神山町というのがあって、これはグリーンバレーという事業があって、いろいろなところで取り上げられていますが、グリーンバレーが進めているのは、自分たちの町には雇用の場がない、だから職業がある人が自ら来てくださいと。職業がある人が来てくれれば住む場とかいろいろな場を提供しますというやり方をして一定の成功を収めている。そういうのも 1 つのあり方かもしれない。</p> <p>それからもう 1 つは、東京では、例えば IT 企業で 1000 万の収入がある場があるかもしれないけれども、岩手で 1000 万の IT 企業が立ちゆくかということ、なかなか難しい。そうすると、逆に岩手の中では 1 つの仕事ではなくて、これから新しい 2 つ 3 つの仕事を持つことによってトータルな収入を確保する。例えばスキーが好きな人であれば、スキーのインストラクターの免許を持っているのであれば、スキーというもののビジネスと別のビジネスを両方やることによってトータルでの収入を上げる。そのような時代に来ているのではないか。それが東京では 1 つの仕</p>

	<p>事しかできないかもしれないけれども、岩手では、八幡平ではいくつかの仕事を掛け持つことによって、自分の能力を発揮できることによって1つ1つの収入はそれほど大きくないけれども、トータルとして非常に豊かな生活ができる。</p> <p>それからもう1つ大事なのは、八幡平に住んでいるじいちゃんばあちゃんも働けるし、父ちゃん母ちゃんも働けるしという、そういう一家での収入というものを確保できるということが必要だろうと思っています。</p> <p>もう1つだけお話を申し上げると、第2の資料にあったのですが、東京において10代から20代前半で田舎に行きたい、田舎暮らしに憧れているというのは、全世代の平均値が40%なのですが、47%あるというんです。東京の若者、子どもたちは東京から出ていきたいという思いを持っている子どもたちが47%いる。もう1つ高いのが50代です。その2つのところが高いわけで、そういうところにどのような情報発信をするか。先ほど市長さんがおっしゃったように、20歳だと逆に八幡平市にいたいというのは1割しかないわけですが、東京でもそのような逆転の現象がある。そういうところをどのようにとらまえていくかというのがすごく重要な視点なのだろうなと思います。</p> <p>すみません、ちょっとしゃべりすぎましたかもしれませんが、ほかにご意見がありましたらぜひ。</p>
委員	<p>11ページの八幡平市の政策の基本目標が4つ書いてありますが、これは基本的にどれも等しくすべて重要だというのはわかるのですが、でも重要度というのがあるじゃないですか。それは基本的に上から順に重要と考えてよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>そこは重要度順ということではなく、あくまでも4つとも重要だということで施策展開を図ろうということで考えております。</p>
委員	<p>わかりました。きっとそう言うだろうなと思ったのですが、ただ、私自身が実際に都会から来ている人間として思っなのは、2番目にある「八幡平市の豊かな自然や絆を活かした行ってみたくなる・住んでみたくなる故郷を育む」とありますが、移住したい人は何だかんだいって勝手に来るんです。自分で勝手に魅力を見つけ出して。なので、結局雇用があったり、すごく魅力的な場所だとその人が思い込んでしまえば、「住んでみたくなる」というのはわざわざ役所が用意しなくても、勝手に来たい人が考えて来るのではないかと。それを考えると、これをわざわざ政策の中に入れて一生懸命やることなのかなと思います。もちろん移住者としてやってほしいですが、プライオリティは、低いのではないかと思います。</p> <p>市の政策としてすべてを平等に扱わなければいけないという建前で、多分それ以上のことを言えないと思うのですが、そういったところで私も先ほどから話題に出ている雇用の場のところに本当に重きを置いて、ここが充実されてくれば、おのずとその下のものというのは特にやらなくても解決の道というのはできてくるのではないかなと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ、1番目の雇用の場でも、忘れてはいけないのは、生産年齢人口、15歳から65歳までの人たちが減っていくという現実があるわけです。この間も申し上げましたが、今ある雇用の場より、人が増えたときには新たな雇いをどう作るかという問題があるので、結局工場を誘致しよう。でも、今工場誘致すると、そこに人が取られてしまうと、ほかの企業とかほかの産業が成り立たなくなってしまう。1万5000人ぐらいある生産年齢人口が40年後には1万人ぐらいになってしまい、5000人ぐらい減ってしまう。そういったときに、結局一番先に駄目になるのが労働生産の低いところですから、場合によっては一次産業の生産性が上がらなければそこから減っていくだろうし、地域の商店の生産性が上がらなければそこから減っていく。そこもちゃんと考えていかなければならないだろうと今の話を聞いて思いました。ですから、単なる企業誘致をすることだけがよいことではなくて、その地域の商店の生産性を上げたり、一次産業の生産性を上げていく、そういうところが多分議論としてしっかりしていかないと本当に強い地域にならないのだろうと思います。ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今、皆さんのほうからキーワードが出たようでして、そういう部分を基本目標の中にもう少しやさしくでもいいので盛り込んだほうがいいのではないかと。子どもたちがいるからこそ、その子たちを見据えて、ここに勤めてもらいたいという思いがあると思うので、私もそうですが、自分たちのために暮らしているのも、そういった面で私たちも職業体験ですとか、インターンシップをずっとやっけていまして、もっと産学が寄り添って子どもたちに教えられる環境を作ったほうがいいのかなと、最近そう思うのですが。</p> <p>一方的に企業に学校さんのほうから出向くというのもあるのですが、逆に企業のほうが学校に行って、年何回か講師みたいなことをして、仕事というものですとか、その仕事の具体的な機会ですとか、農業だったらそのことを教えられる環境というのも作ってもよろしいのかなと。そういうことで冒頭でお話があったように、親御さんとお子さんにまちを知ってもらおう環境づくりも必要ではないのかなと。企業目線ですが、思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。教育という視点をぜひもう少し強く出したらいいのではないかと。思います。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>そういう意味では、来週の26日に平舘高校で「働く人講座」というものがあるのですが、採用担当の方にお越しいただいて、こういう仕事にはこういうことでとそれぞれのお仕事について、高校1年生にレクチャーしていただく。いくつかのグループに分かれて、自分の関心のある仕</p>

	<p>事を訪問いたしまして、20分刻みでそれぞれの採用担当の方々のところに行っていただく、そういう形で地元企業様との接点を作ろうと。</p> <p>ただ、先進的な取り組みをしている高校、例えば盛岡北高さんなどは、さらに進めて、保護者様の中でこういう仕事に就いていた方と直接生徒と、普段の生活を通して、仕事とはどういうものかといったことをやっているように聞いておりましたので、少しまだ何かがあるけれども、2年目以降はそういった企業様はもちろんですが、八幡平市内で働いている保護者の方に来ていただいて、農業をやっている関心があるようでしたら、できることではないかということを考えていました。何と言っても高校からすると、生徒に対しては八幡平市に生まれ育ったことの誇りというんですか、郷土に対する愛着とか誇りというものをさまざまな場面で伝えたいです。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。特に地元の高校である平舘高校に憧れて入る子どもたちが増えてこなければ、結局地元を離れてしまうということになるのだらうと思います。ある地区では、例えば医師や歯科医師が不足している。そうしたら地元の高校がそういうコースを作って育成するというのもしなければならぬと全国的には動いているようであります。八幡平市は盛岡に近いから、そういうのは盛岡に任せればよいという発想もあるかもしれませんが、そうではなくて、八幡平市は1つの自立したまちとして考えていくのであれば、そういうことも考えていかなければならないことだらうと思いました。ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>子育てに関してですが、やはり自然環境がいいというブランドがあるというか、農業でもそういうものを作っていこうということで、教育でもブランド化というか、浮かぶものは、八幡平市で子育てしているんだよという、ああいいところで子育てしているよねという評価を受けるような形に持っていくことが必要かなと。そうすれば若い人たちであそこで子育てしたい、また、現在やっていて、子どもたちが将来大きくなったときに、僕たちが育ってきた八幡平市、ああいうような環境で子育てしたいなと思えるようなことが重要かなと。それは簡単に言うと教育のブランド化みたいな形で、ほかの地域の人たちが、ああいいなあ、そういうところで育てられる。そういうところで人を吸収していくためには、雇用だ、云々だということがついてくるのかなということで、教育に関しては、わりと行政もタイアップして作っていけるのかなという感じはします。</p>
会長	<p>そうですね。高校だけでなく、幼稚園、小学校、中学校を含めて地域で子どもたちがいきいきと育っていくという、そういうことをできることが多分八幡平市のまさにブランド化につながるだらうと。出ていった子どもたちがいつか子どもができたときにはぜひ八幡平で子育てしたいと思っていく。そういうのはすごく大事だと思います。ありがとうございました。</p>

	ました。ほかは、いかがでしょうか。
市長	委員さんにお聞きしたいのですが、市内で求人を出してもさっぱり来てもらえない、そういう訴えがあるのですが、それに受けて、じゃあ市内で都会に働きに行っている人たちの家庭からアンケートを取って、こういう企業がこういう仕事で募集していますよ。ぜひ戻ってきて、こういう職に就きませんか、こういう働きかけというのは法律上、できないのですか。
委員	働きかけそのものは基本的には自由にやっていただいていると思います。あとは、企業から了解を頂いた求人についてはインターネットで公開していますので、インターネットでも検索できるようになっています。
市長	そこなんです。なかなかインターネットの検索に入っていないんです。例えば残されているここに住んでいる家族が、次男や三男に働きかけて、こういう仕事があるから戻ってこないか、役所で斡旋しているからどうかと。
委員	それは国もさることながら、ふるさと定住財団といいまして、東京事務所を通じて希望者に対していわゆる U ターンの情報を提供したり、あるいは求職者については日本全国どこでも求人が閲覧できるようになっています。岩手の状況がどうだとか。そういったことというのは基本的にはあるんですね。
市長	本人を説得するのはここにいる家族なわけですが。家族の人の働きかけがすごく影響するんです。そのところを行政として橋渡しできないのかなという感じがするのですが。
委員	やはり基本的には、例えば息子さん、次男さんか長男さんは別として、親御さんなら親御さんがハローワークに来ていただいて子どもさんの相談をすることも当然させていただいております。状況的にはね。
市長	そうすると、企業が求人している。その求人している実態を家族の人に教えて、ハローワークに行って相談して、自分の息子さんに言うてもらうことは。
委員	二重手間のように聞こえるかもしれませんが、遅いようで、多分一番早い作業だと思います。
市長	わかりました。
会長	すごく大事なことで、例えばある自治体の方から相談を受けて、私ども大学の同窓会の会報を出すときに、そこに自分のまち出身の同窓生に対してそういう情報を送ることはできないのかという相談も実際はありまして、そうすると、東京で顕在化した帰りたい人というのは、1つはどこかに、ハローワークに行ったり、自分で調べたりすると思いますが、日常ではなかなかそういうことがなくて、大半の、多分顕在化しているのは氷山の一角であって、その下には帰りたいんだけども日常の中でいろいろと振り回されていて、とてもそういうところに行くことができないという人たちがいるわけです。そういう人たちにポッと情報があると、

	<p>あっこんな情報があるのかということで、疲れているときに、じゃあ戻ってみようかと思う、そういうきっかけがすごくこれから大事ではないかと思うので、多分市長さんはそういうことを行政と残されたご家族の間で何かできないかなと。そこは例えば今の職業斡旋法に引っかからないような形で何かできるかどうかという、多分そういうことだろうと思いますので、ぜひお知恵をお借りできればと思います。</p>
委員	<p>Uターンフェアという形でイベント的には年3回、東京で開いたり、仙台で開いたりしています。そういった情報が親御さんまで届いていないために、市長さんからそういうお話を紹介しているのだと思うのですが、今後も力点を置いて進めたいと思います。</p> <p>個人的に、今までの総合的なお話をいろいろされていますよね。若者から見て、八幡平市で、環境、雇用、全般的に一定程度魅力があるかどうかというのが1つのポイントになってくると思うんです。</p> <p>今後の人口問題で、8ページのところに出生率があるのですが、私、県南のほうに住んでいるのですが、私の親世代は当然80を超えているんだと思いますが、当時は農業者であろうと、何をやる人であろうと、みんな結婚していたんじゃないですかね。どうですか。</p> <p>というのは、私の近所、約70世帯あるのですが、若者に限らず、40代、50代で独身の男性の方がたくさんいるんです。したがって70世帯あるのですが、お子さん、娘さんがいて、お孫さんがいる世帯は私から見て3~4割ぐらいいけばいいほうかなと思います。こういうふうになった原因は何なのか、ずっとこれに限らず考えたりしているのですが、そこをクリアできれば、増えるのかなと思うのですが。</p> <p>出生率の前に、今申し上げたとおり、結婚率というんですか、若い方のカップルがこの市内でいくつできているのかというのが1つのポイントだと思うんです。カップルが少ないのに出生率を上げてても人口は減るのは止まらない。そこのところの間に結婚率というのが表立って出なくてもどこかにポイントとして目標値としてあれば、なお計画として説得力のあるものができるのではないかと、私個人として思っています。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。前回の資料で出生率と結婚数と離婚数が出ているのですが、これは絶対値で出ているので、絶対値ではなくて率が多分大事ですよ。結婚している割合がどうかというところがすごく大事だろうと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>今の結婚の話で疑問に思ったのですが、市の中では、例えば私は今39歳なのですが、39歳で同級生も何人か、結婚していない人がいるんです。それはどのぐらいの割合なのかとか、そういう統計はあるのですか。</p>
会長	<p>おそらく数が出ているので、率も。</p>
委員	<p>出せば出るのではないですか。</p>

事務局	そうですね。ちょっと調べてみます。
会長	<p>それでいいですか。もう少しお話はいいですか。ありがとうございました。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。今日は金融機関の方もおいでになっていますが、金融機関が入っていらっしゃるといのはいくつかのポイントがあって、金融機関は地域が発展することによって預金率、貸出数が上がって、金融機関も発展していくということで、地域が小さくなっていけば金融機関もなかなか大変な状況になっていくのだろうと思うので、岩手銀行さんあたりは、私の聞くところによると地域での婚活、特に産業人の婚活を進めるという話を聞いていますが、何かそういう情報などがありましたら。</p>
委員	<p>そうですね。手前どもとしましては、企業さんの未婚のご長男とか、そういったもののマッチングする会社と提携しておりまして、ご紹介活動はしております。結婚自体はそんな感じです。</p> <p>手前どもとすると事業者数が減っていくのは困ることなので、1つ事業に力を入れておりまして、昨年か、今年か、企業のファンドを作って、そういったメニューを持っております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。そういう形で銀行さんも地域を振興するために。今の銀行さんの動きだけではなくて、他の銀行さんでも、個人的な意見で結構ですが、こうしたら地域が活性するのではないかとというのがありましたらお願いします。</p>
委員	<p>個人的な意見ですが、産業という部分で見たときに、私がお会いする社長さん、経営者さんは非常に元気な方が多いというイメージがあります。せっかく継続してきた産業なので、後継者がいらっしゃればという部分はあるのですが、いらっしゃらなくてもということもありますので、先ほど閉めるという話もありましたが、事業を継続するという部分で何か考えていければという部分も感じております。</p>
会長	<p>あとで別な金融機関さんにも聞きたいと思うのですが、特に八幡平は一次産業が多分すごく大事な産業で、銀行さんはそこら辺は何か一次産業もさらに高付加価値産業になるような取り組みとしてのことは何かやっていますでしょうか。</p>
委員	<p>今それこそ私も4月に来たばかりなのですが、八幡平市に関しては農業・金融機関係も非常にいい地域だと思いました。今自然エネルギーを生かした環境という感じで、そういう形の取り組みをしている中で、非常に農業、6次化産業ですよね。そういう中である程度計画を持って地域・周りのすべてが連携を図れば、ある程度いい方向に行くのかなと、私はそう思うのですが。</p> <p>ただ、地域的にうちの会社もですが、そういう産業に対する支援というのはまだ確立していない部分があるんですね。銀行もそういった企業に対してのいろいろな情報を紹介しながら、このプロジェクトが成功</p>

	<p>するようにそういう形の支援を行っていきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。特に3行さんをお願いしたいのは、先ほどの事務局の説明にあったシティープロモーション、ある意味ではタウンマネージメントと言ったほうがいいんですかね。そういうことで地域が豊かに、物質的に豊かなだけでなく、精神的に豊かになっていくときには金融機関が果たす役割は私はすごく大きいと思うんです。単なるお金を貸す対象ということではなくて、全体の中でどうやっていくか。そういう視点をぜひ次回以降、少しご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。もうそろそろ時間が押し迫ってきておりますが、ぜひここで発言をしたいという方がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>冒頭、会長から、ノルウェーとかスウェーデンでは男性が家事をする時間が長い。そうすると出生率が高いというお話があったのですが、実際のどのくらいですか。もしこれが事実だとすれば、統計なので、これがすべてのことに当てはまるかということそれはまた別の話だと思うのですが、1つのモデルケースだと思います。お父様方にかというか、私も実は家事の時間は、申し訳ないのですが、ゼロなのですが、これを何時間か増やすことによって奥様が楽になる。そうしたらもう1人というふうになるという統計なのであれば試してみる価値はあると思うんです。みんなにこれを伝えて、啓発というか、啓蒙するというか、行って、出生率を上げるための努力をする価値はあると思います。そういうのもやんわりとでいいので、入れてもいいのではないですか。</p>
会長	<p>6歳児未満のいる夫の家事、育児時間の1日当たりの割合が出てまして、後でコピーをいただければいいと思うのですが、日本は家事・育児の割合で、夫ということでは、家事全体の時間が1.07、そのうち育児に充てる時間が0.39。ノルウェーでは3.12時間を家事全般に充てて、そのうち1.13時間を育児の時間に充てる。ですから、結局家事も3倍かけているし、育児も3倍かけているわけです。第2子以降に生まれる割合を見たときに、夫の平日の家事・育児時間が多いと第2子が生まれるとなっています。4時間以上は家事・育児に夫が取りかかると71.1%。全体で4時間以上のうちの71.1%を夫が見ているのかな？ どうだろう。後でもう少し勉強してきます。</p> <p>そういう数字があったりして、これは後でもし差し支えなければ、多分大丈夫でしょうから皆さんにもコピーをお返しして、ぜひいろんな視点から勉強していただければと思います。いろいろな統計の取り方があるって、平面的な統計の取り方ではなくて、問題意識を持って、こういうことでやっていくとどうなんだろうかということを見ていかないとなかなか物事の本質は見えてこないだろうと思います。ぜひ事務局、市役所だけでなく、みんなで議論していく場にしていきたいと思います。ありがとうございます。</p>

市長	<p>個人的なあれで申し上げますが、うちの息子はお風呂に入れたり、お乳を飲ませたり、洗濯したり、女房はしかめっ面をしているけれども、その結果かどうか、3人子どもがいます。ただ、我々の年代の女性から見るとしかめっ面をする。</p>
会長	<p>その意識も変わっていかないといけないということだと思います。ありがとうございます。</p> <p>私はほとんど家事は昔はやりませんでしたので、結局家事をやらないということは、子どもが生まれると2人までが多分限界なんですよ。1人をお風呂に入れるとき、1人が面倒を見て、1人をやる。それが3人になったとき、当然旦那さんのお手伝いがなければ、要するにお風呂に入れることすらできないという状況になってくると思います。そういうこともお考えになっていただけるといいかなと思います。</p> <p>時間になりましたので、ここで一旦4の議事(2)を終えたいと思います。</p> <p>(3)のその他ですが、事務局から何かございますか。</p>
事務局	ありません。
会長	皆さんのほうから何かございますか。
委員	<p>今後の進め方で、各種団体との意見交換、随時とありますが、先日、温泉郷の宿の人からお盆の客入りの話をしてもらったのですが、2年前ぐらいから全然お客さんが来ない。宿としてもただ待ち構えているだけではいけない。何か手を打たなければならぬというような話をされていて、宿泊施設との意見交換も是非してもらいたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。よく視点で残るのが、今申し上げたように産業界との意見交換で、これはあるところもそうだったのですが、行政というのは住民自治というふうに考えてしまっていて、住民組織、行政区に企業があるにもかかわらず、企業さんは抜かれて、そこに住んでいる人たちとの意見交換だけが中心になってしまっていることがあって、本来はそうではなくて、そこにある企業さんもその地域を支えているんだという視点が多分必要なのだろうと思います。ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>それでは、また例によりまして、今日、言い足りなかったこともあると思いますし、後で気づいた点もいっぱい出てくると思います。次回まだ時間を設定されているようではありますが、その前に事務局のほうにぜひこういうことだけは言っておきたいということがありましたらファックスなりメール等でご意見をお寄せいただきたいと思います。また私のところでも結構ですし、こういうことはどうなんだろうかというのがありましたらお寄せいただければと思います。</p> <p>それでは、時間が迫ってまいりましたので、とりあえず議事の(3)まで終えたということにします。</p> <p>5のその他ということで、事務局に司会をお返ししてよろしいでしょう</p>

	か。
事務局	ありがとうございました。それでは、大きな5番のその他ですが、事務局から若干説明します。
事務局	次回第3回の有識者会議ですが、10月8日、木曜日、時間、場所とも同じこの場所で行います。また後ほどご案内いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。
会長	10月8日ということでございます。ありがとうございました。 ちょっと確認ですが、KPIを設定しなければいけないのですが、それは次回あたりから出てくる話になりますか。
事務局	本日お示しいたしましたのはあくまでもたたき台ということございまして、この中身を詰めてまいるわけですが、それと同時に成果指標いわゆるKPIも合わせてご提示していくような形で進めてまいりたいと考えております。
事務局	長時間にわたり暑い中、大変ご苦労さまでした。以上をもちまして、八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉じたいと思います。大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。